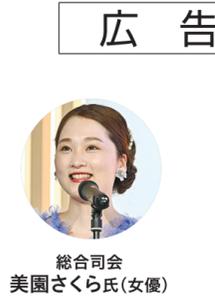




©Expo2025

# 軽量パネル、個人も企業も

気候変動や健康問題など、人類の未来を見据えた課題に向けて、9月29日、大阪・関西万博テーマウィークスタジオで、「再生可能エネルギーと再生医療で救う未来」をテーマに、シンポジウム(主催:日本経済新聞社メディアビジネス)が開催された。企業のトップや研究者、元アスリート、世界の若者たちが活発な議論を交わした。



## 座談会1

## 進化する太陽光発電



笠原政利氏  
八千代ポーター代表取締役



實川裕一郎氏  
マルハン北日本カンパニー副社長執行役員



大村佳三氏  
成協信用組合理事長

### 災害時の避難所活用にも寄与

——利用者の声を聞きたい。  
大村 大阪府東大阪市に本店を置き、府下で16店舗を展開している。そのうち6店舗にソーラーパネルと蓄電池を設置し、順次全店舗に広げる予定だ。有事の際にも支障なく事業を継続できるようにするために、店舗を避難所として開放することもでき、まちの暮らしを守る金融機関として役割を果たせるからだ。顧客からも土地や建物の活用で太陽光発電の設置に対する融資や補助金の相談が増えている。こうした声に対応することも再生可能エネルギーの普及に貢献していきたい。

——価格が下がるのか。  
高村 わが国では太陽光発電設備の低コスト化が進み、導入しやすくなっている。自ら発電消費をする分散型の太陽光の導入は、電力代の支払いを抑えることができ、災害時に電力供給が途絶えても必要な電力を確保できる。太陽光とともにバッテリー(蓄電池)を導入すれば一層効果がある。国産電源の確保は日本のエネルギー安全保障にとっても非常に重要だ。

——価格が下がるのか。  
高村 わが国では太陽光発電設備の低コスト化が進み、導入しやすくなっている。自ら発電消費をする分散型の太陽光の導入は、電力代の支払いを抑えることができ、災害時に電力供給が途絶えても必要な電力を確保できる。太陽光とともにバッテリー(蓄電池)を導入すれば一層効果がある。国産電源の確保は日本のエネルギー安全保障にとっても非常に重要だ。

——価格が下がるのか。  
高村 わが国では太陽光発電設備の低コスト化が進み、導入しやすくなっている。自ら発電消費をする分散型の太陽光の導入は、電力代の支払いを抑えることができ、災害時に電力供給が途絶えても必要な電力を確保できる。太陽光とともにバッテリー(蓄電池)を導入すれば一層効果がある。国産電源の確保は日本のエネルギー安全保障にとっても非常に重要だ。

——価格が下がるのか。



高村ゆかり氏  
東京大学未来ビジョン研究センター教授



鬼塚友章氏  
HESTA 大倉代表取締役社長



谷本貫造氏  
しろくま電力(ばわー)代表取締役

### 蓄電池併用で低コスト・安定自給

——気候変動への取り組みは。

——価格が下がるのか。

販売開始から注文殺到！  
さらなる  
設置拡大のため



# 施工業者様

# 大募集!

個人・法人様の設置お申込みも下記フリーダイヤルまで

曲がる! 薄い! 軽い! HESTAソーラー

お申込み・お問い合わせは株式会社HESTA大倉へ (9:00~18:00)

☎ 0120-13-6058



## 座談会2 人類の可能性を広げる再生医療

再生医療とは傷んだ組織や臓器などを修復再生することを目的とした医療分野だ。中村憲正氏は「iPS細胞など幹細胞を使った治療や、組織を実際に体外で作ってそれを移植する治療など、技術革新が進み適応領域は確実に広がっている」と再生医療の現状を述べた。

北島康介氏は自身の膝の痛みの経験を通して「スポーツと医療は密接な関係にあると実感した。今や選手寿命も長くなっている。けがをしても早期の現役復帰を目指す選手には、安全で安心感のある再生医療にチャレンジしてほしい」と話した。

膝軟骨の移植手術(ジャック)をしたタレントの近藤岳登氏は「Jリーガー時代の後半、膝の痛みで走れず、満足なプレーができなくなった。まさに現役続行か引退かの二者択一の中で、信頼する医師

の勧めで手術に踏み切った」と当時の心境を述べ、「手術は成功し、夢だった富士登山もできた。再生医療の効果を実感した一人だ」と自身の体験を話した。

中村氏は「再生医療は健康寿命を延ばすことが到達点だ。アスリートだけでなく、幅広い年齢層に貢献できる技術だと確信している。今後は同種細胞利用を可能にする細胞バンクの設立やAI(人工知能)との融合などで、低価格化やさらなる安全性の追求などに取り組みたい」と再生医療の将来展望に言及した。

- 登壇者
- 中村憲正氏 (大阪保健医療大学教授)
  - 北島康介氏 (五輪金メダリスト、HESTA 大倉代表取締役副社長)
  - 近藤岳登氏 (タレント)

## クロージング ユースと創る、気候変動と向き合う未来

初めに高村ゆかり氏から「今後、若者たちが未来のためにどういう取り組みをしていくのか」との問題提起を受けて、青年環境NGOクライメイト・ユース・ジャパンの谷浦遼祐氏の進行でセッションが始まった。

まずシンガポールなどから5人の若者がVTR出演し、気候変動に関する現状と活動を報告。続いて、海外ユース団体に所属するタイのジッサイ・サンタブラ氏、中国のチョウ・ジェ氏、インドネシアのサルマ・アジザ・スタンダー氏、香港のユルアン・チェン氏が壇上でプレゼンテーションを行った。さらに社会

起業家のたかまつな氏も加わり、クライメイト・ユース・ジャパンの大同唯和氏をファシリテーターとしてパネル討論を展開した。

パネラーから「現状を踏まえ、まず仲間を見つけ、自分ができることに前向きに取り組むたい」と発言があり、たかまつ氏は「日本においてはまだ運動の盛り上がり小さい。財政的、人的な支援も必要では」と現状を述べた。

最後に高村氏が「気候変動に対する関心をさらに高め、若者から声を上げ、行動を起こしていこう」と総括して討論を終えた。



当フォーラムの動画は右記をご覧ください▶